



アレス動物医療センター院長
(高岡市下伏間江)

沖田 将人

ペット用フードには硬いドライフードと軟らかいウェットフードがあり、ドライフードよりもウェットフードのほうがおいしいようです。飼っている犬や猫がドライフードを食べなくなった時に、どうにか食べさせなければいけないとウェットフードを与える飼い主さんがいます。しかしその対処法は正しいのでしょうか。

食べる量が減ったら



ウェットフードを食べる猫

が、年のせいしか食べにくそうにしていたのでウェットフードに変えた。ドライフードを40g与えても半分しか食べなくなっていたのが、ウェットフードなら40g食べられる」とのことでした。飼い主さんは猫が痩せていることには気付いていたのですが、これも年のせいだと思っていたそうです。その猫を検査したところ重度の腎不全でした。

年のせいと決めつけない

この飼い主さんは二つの大きなミスをお犯していました。一つは、フードを切り替える際にカロリー計算をしなかったこと。そしてもう一つは、ドライフードを食べなくなった原因を年のせいと決めつけてしまったことです。

性もありますが、歯肉炎、腎不全、糖尿病、がんなど他の原因も考えられます。動物病院に行って検査もせず、年のせいという一番楽観的な可能性に賭けるのは非常に危険です。

ウェットフードはドライフードの約4分の1のカロリーしかありません。つまりドライフード40gをウェットフードに変えるときは160g与えなければいけません。同じグラム数でウェットフードを与えるということは食事を4分の1に減らしたということになります。これでは当然痩せてしまい、長期間続ければ栄養失調になります。

今まで食べられていたものが急に食べられなくなった時、飼い主さんは「どうやって食べさせようか」と考えます。これに対し獣医師は「なぜ食べられなくなったのだらう?」と考えます。食べさせる手段も大切ですが、それ以上に原因を突き止めることが大切なのです。いつものフードを食べなくなった時は自宅で対処せず、動物病院に相談する習慣をつけましょう。

またドライフードを食べられなくなる原因は年のせいという可能

毎月第一土曜掲載